



# 学内実習ポートフォリオを活用した教育プログラムの有用性

～臨床技能支援型カリキュラムが学生の自己効力に与える影響について～

金子純一郎<sup>1)</sup>、石坂正大<sup>1)</sup>、関優樹<sup>2)</sup>、堀本ゆかり<sup>3)</sup>、谷口敬道<sup>2)</sup>

1)保健医療学部・理学療法学科 2)保健医療学部・作業療法学科,

3)小田原保健医療学部・理学療法学科

## 【はじめに】

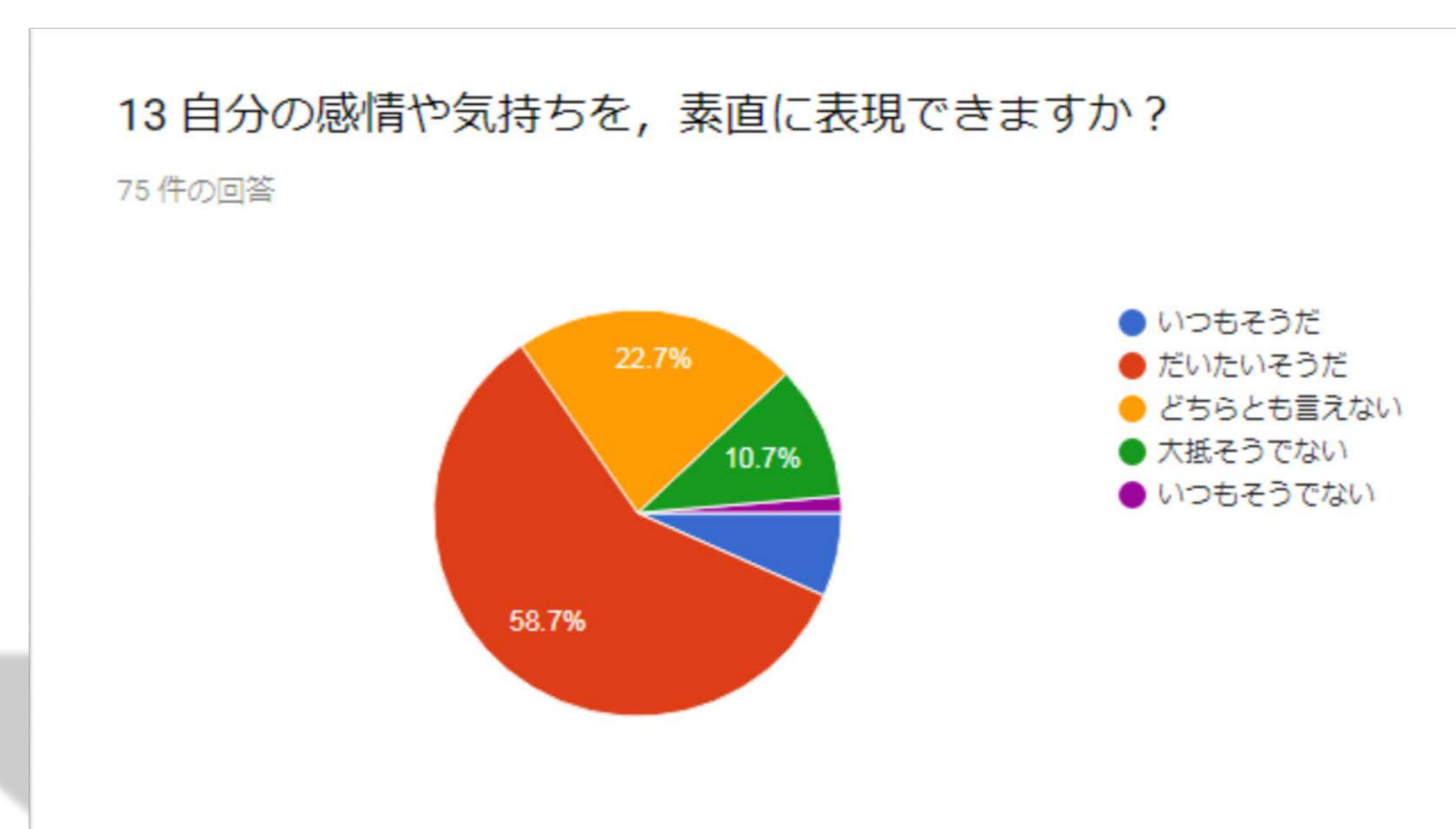
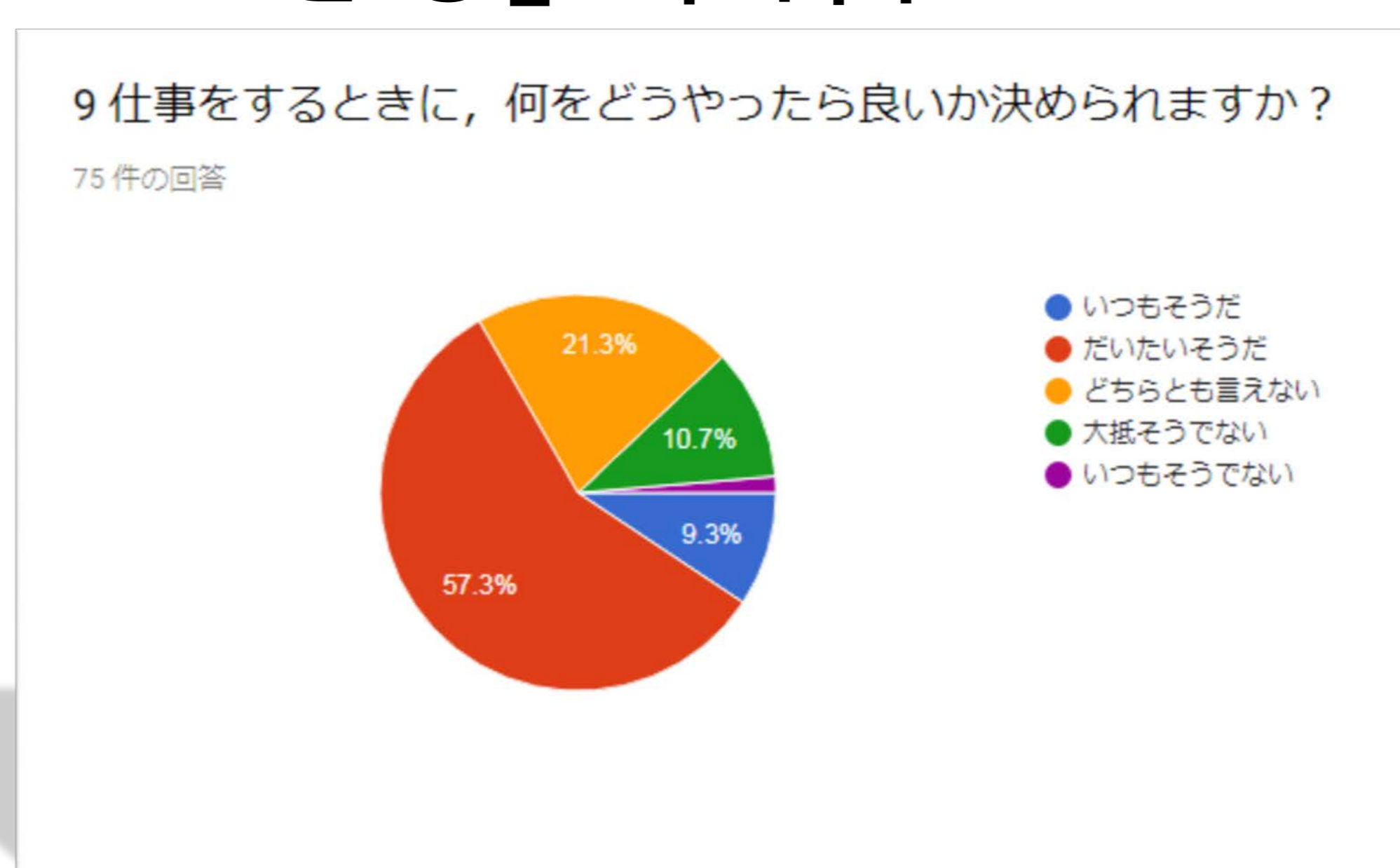
- 学内実習の目的は臨床実習に必要な臨床技能並びに問題解決能力の構築であると考えられるものの、先行研究において、臨床実習支援に対する学内実習カリキュラムについては体系化までに至っていないのが現状である。
- そこで学内実習を中心に臨床実習支援型カリキュラムを作成し、社会的スキルに関する効果判定を実施したのでここに報告する。
- なお、本研究は国際医療福祉大学の研究倫理委員会の承認を得ている(承認番号:16-Io-119)。

## 【対象と方法】

- 保健医療学部2年生76名
- 対象者 ポートフォリオを学内演習で実施し、アンケート調査を実施し回答を得た75名(回収率98.7%)。
- 対象者 属性  
PBL形式課題, ポートフォリオ課題をいずれも作成  
基礎学力課題提出および基礎学力チェック終了
- アンケート項目 :社会的スキルKISS-18

## 【結果】

- 社会的スキルの調査結果は62.6±8.94点であった。
- アンケートの下位分析においては、「仕事をするときに、何をどうやったら良いか決められますか」の質問と「自分の感情や気持ちを、素直に表現できますか」の質問において、回答数の約60%が「できる」と回答していた。



## 【考察】

- 社会的スキルに関する調査を分析した結果、臨床技能向上に不可欠な知識レベルを保証できたこと、グループ演習におけるPBL課題を達成したことで社会的スキルが向上していた。
- 特に、知識をグループ内で共有でき、問題解決に対する個人の考えを提案できていたと考えられ、自己効力が向上していると示唆された。